

〈小学校生活科〉

児童が生き生きと活動する生活科授業の創造

ー 一人一人の思いや願いを生かした「地域探検活動」を通して ー

糸満市立光洋小学校教諭 前 新 マチ子

内容要約

地域探検活動において、児童の思いや願いを生かした学習過程や活動の場の設定を工夫して授業を実践してきた。

一人一人の児童が、思いや願いをもって意欲的に探検活動ができるように、教材との出会いの工夫や活動を高めていけるような場の設定を工夫することで、児童が地域や地域の人々に関心をよせ、生き生きと活動する姿が見られた。児童はそれらの活動を通して地域や地域の人々のよさ・友達や自分のよさに気づくことができた。

【キーワード】一人一人の思いや願い 学習過程 場の設定の工夫 生き生きと活動 人々のよさ

目 次

I	テーマ設定の理由	31
II	研究仮説	31
III	研究内容	32
1	生き生きと活動するとは	32
2	児童の思いや願いが生きる授業	32
3	一人一人の思いや願いを大切にした学習指導の工夫	33
4	評価の工夫	35
IV	授業実践	36
1	単元名	36
2	単元設定の理由	36
3	単元の指導目標	36
4	活動計画	37
5	本時の指導計画	38
6	実践を終えて	39
V	研究の成果と今後の課題	40
1	成果	40

〈小学校 生活科〉

児童が生き生きと活動する生活科授業の創造

— 一人一人の思いや願いを生かした「地域探検活動」を通して —

糸満市立光洋小学校教諭 前 新 マチ子

I テーマ設定の理由

今年度から「ゆとり」の中で自ら学び、自ら考える力などの「生きる力」を育むことを目指した教育課程がスタートした。生活科においてもゆとりある中で自ら学び、自ら考え、主体的な学習ができるように学習内容を厳選し、地域の環境や児童の実態に応じた弾力的な指導、多様な活動や体験が求められている。

生活科は、地域に根ざし、児童の生活に根ざす教科であり、学習の対象や活動の場は、児童の生活圏の人、社会、自然であり、それらを自分とのかかわりでとらえることを大切にしている。しかし、児童の現状として、核家族化、少子化、高齢化など社会の変化に伴って、人とのかかわりや地域とのかかわりが希薄化していることが挙げられている。本学級の児童も祖父母との同居が少なく、核家族や少子家庭が多いため様々な人々とのかかわりが乏しい傾向にある。『学習指導要領解説生活科編』の内容(3)では、「自分たちの生活は、地域の人々や様々な場所とかかわっていることが分かり、それらに親しみを持ち、人々と適切に接することや安全に生活することができるようにする。」ことが掲げられ、特に人とのかかわりが重視されている。

そのことから、児童が家庭や学校・近所の身近な人々と触れ合ったり、地域のよさに気づいたり、発見したりできる活動や体験の場を設定することは、大切であると考えます。

また、生活科では児童が学習の対象に対して「～してみたい」「～が楽しそうだな」など児童の意識の流れを大事にし、児童が主人公となり生き生きと活動を推し進めていくような授業の創造が求められている。そのためには、児童一人一人が思いや願いをもって学習の対象にかかわっていけるような動機づけや活動を高めるような教材との出会いを工夫することが大切である。またその他に、日頃から児童のつぶやきに耳を傾け児童の興味・関心を把握し、活動の内容や活動の場の設定を工夫することによって、主体的な学習ができるものである。

ところで、これまでの自分の実践を振り返ってみると、児童の思いや願いを十分汲み取ることなく「教師の考えた活動を児童にさせるだけ」の画一的な授業展開が多く、児童が「もっとやってみたい」「もっと調べてみたい」という意欲的な活動や、児童の活動が継続・発展していく学習指導の工夫がなされていなかったのではないと思われる。そのため、単に活動するだけにとどまっていることが多く、「～がわかった」「もっとやってみたい」という児童自身の成就感や達成感が少なかったように思われる。それは、児童自身が学習の対象に思いや願いを持って関わる活動や体験の場の設定が不十分であったこと、また十分な活動や体験の時間を保障をしてあげることができなかったことに起因していると反省させられる。

探検活動は、未知の世界を探り、未知の世界に分け入り、未知の世界を調べ、そうして自分の世界を新たに広げていくことのできる教材である。「地域探検活動」において、児童は自分が知っている地域の秘密を紹介したり、興味や関心を持って地域の様々な場所を探検し観察したりするなかで、新たな発見や気づきがあると考えます。このように「地域探検活動」において児童の興味・関心を喚起し、維持、継続できるような対象との出会いや場の設定の工夫、一人一人の児童への意識の流れに対応することで、児童が自分の活動への意欲や次の活動への期待感を持って望むことができるであろう。また、児童が様々な人と出会い地域や自然と触れ合うことで、気付いたことや楽しかったことを誰かに伝えたいという表現意欲も高めることが期待できる。

そこで、地域探検活動において、児童一人一人の思いや願いを大切に児童の意識の流れに沿った学習指導の工夫をすれば、児童が生き生きと活動するであろうと考え、本テーマを設定した。

II 研究仮説

地域探検活動において、児童の思いや願いを大切に児童の意識の流れに沿った学習指導を工夫すれば、児童が生き生きと活動するであろう。

Ⅲ 研究内容

1 生き生きと活動するとは

生き生きと活動するのは、「一人一人の児童が自分自身の思いや願い、考えをもって活動すること」だと捉える。その生き生きとした活動を支えるのは、児童が心の中で「やってみたい」「どうしてかな」という内発的な意欲がわき、児童自身が活動に没頭し、楽しさを感じたときである。

たとえば、探検活動において児童の思いや願いを生かすようにすれば、児童が「～へ行ってみよう」と探検場所を自分で探し出し、「グループの名前は、～にしよう」「探検の旗も作ろうよ。」などと活動の意欲が高まってくる。このことによって学習活動は、主体的に継続し展開していく。そうした中で、「～を調べたいね。」「～について聞きたいなあ。」などと次第に自分のめあてがはっきりし、活動の見通しが立ってくる。こうした児童の自己実現や態度こそが生き生きと活動することにつながる。

2 児童の思いや願いが生きる授業

図 1 に示すように生活科での活動や体験は、児童の思いが主体となることが重要である。そのために教師は環境を整え、一人一人の児童を理解し励まし支援していこうとする姿勢をもつことが求められる。児童の思いが主体となる活動が充実すれば「楽しかったことや分かったことを作文や絵でかきたいな。」と児童の表現意欲は高まり、知的な気づきも豊かになってくる。それと共に自分の活動の振り返りやこれからの学習や生活への意欲の喚起につながる。すなわち児童の思いや願いが生きる授業とは、生活科における授業づくりの基本である。

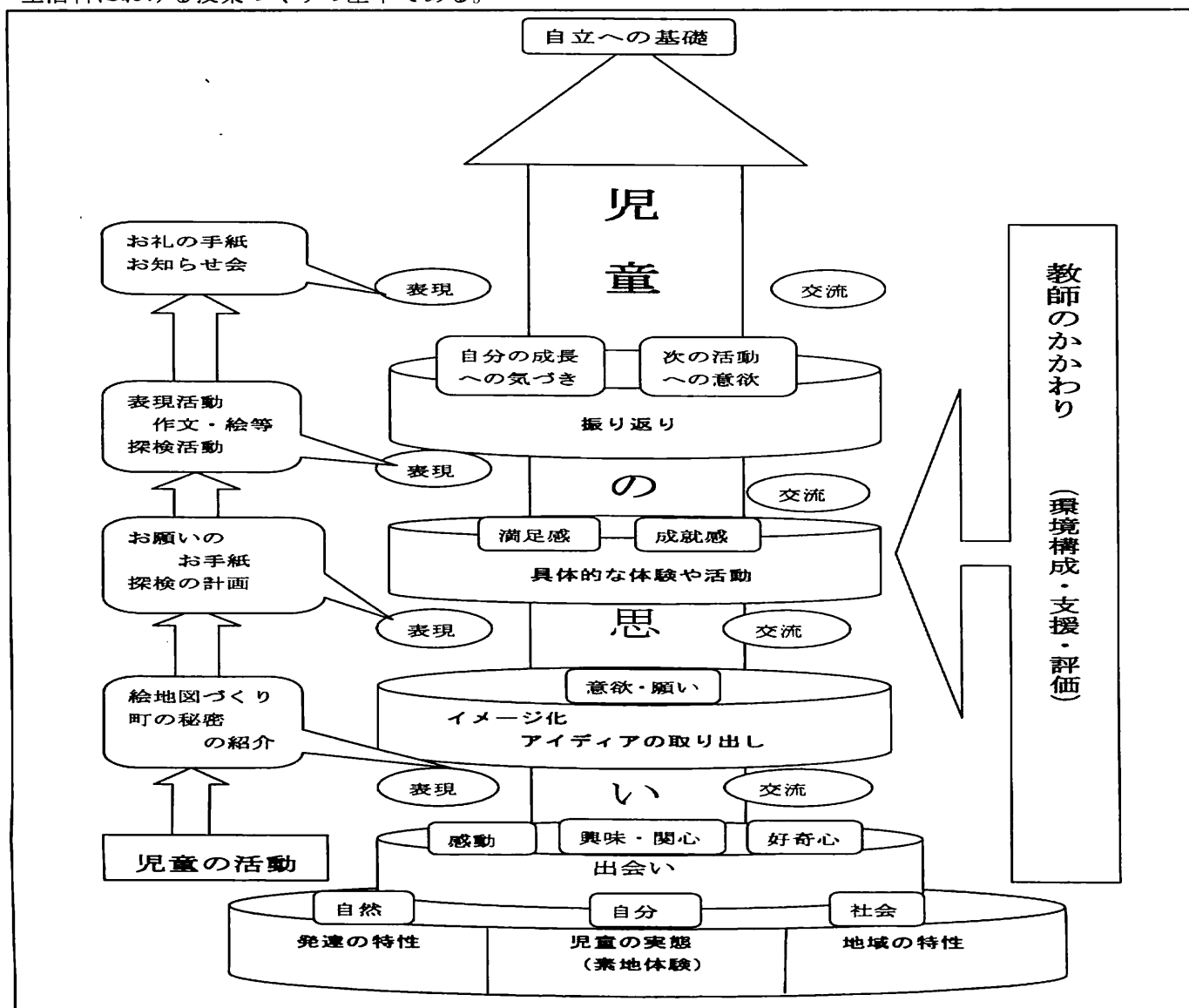


図1 生活科授業づくりの構想図

3 一人一人の思いや願いを生かした学習指導の工夫

(1) 思いや願いを生かした学習過程の工夫

学 習 過 程	児童の意識の流れ	学習活動の場の工夫
見 つ け る	・ひみつの場所をおしえよう ・たんけんえちずをつくろう ぼくの家近くに花やがあるよ。いちごの苗をかったよ。 朝学校に行く時、横断歩道にいつも～さんがいるよ。	その場所を是非訪ねてみたいという探検の意欲が高まるような導入の仕方を工夫する。 ・朝の会や帰りの会等で学校の行き帰りで見つけた地域の自慢や知ってる店などを発表する。 ・校区の様子をお知らせした3年生からの手紙を紹介する。 ・学校の行き帰りで発見したことやよく会う人などを絵や言葉でカードに書き、絵地図に貼っていく。
め あ て を も つ	・たんけんのけいかくをたてよう 早く探検にいきたいね。わたしたちは、ピカチュウグループだよ。 ぼくたちは、ほうとくしょ店をたんけんしよう。	一人一人にめあてをもたせて、学習の必要感をもたせる工夫をする。 ・どんなことが聞きたいのか質問することを右の「探検カード」にまとめさせ探検のめあてをもつ。 ・探検に行きたい場所は自己決定のもとで行い、同じ目的のグループで探検の計画を立てる。 ・マナーについて話し合う。 たんけんカード たんけんするところ 6月11日 火 ほうとくしょてん おはなしをしてくれた人 なかむらてでまき ききたいこと（しつもん）① 「ほうとくしょ」とか「じゅう」はつくっているんですか？ しいたてているんですか？ ほうとくしょてんはここだけでいいですか？ ききたいこと（しつもん）② ほうとくしょてんは、さいきんできたんですか？ とまねからあるんですか？おしごとには、ノマツンとかいいますか？しらすをいいますか？
交 流 す る	・でかけよう町たんけん かんぱん屋にはいろいろなペンキがあるね。	探検活動においては十分な時間を確保し個々の思いに対応できる探検の場を設定する。 ・安全面の配慮・個々への思いや願いに対応するため学年TTを組んだり保護者への協力をお願いする。 ・活動が充実するように、十分な時間を確保し地域や地域の人との触れ合いをさせるようにする。
ま と め る	・みんなの大はっけん ・お知らせ会をしよう とうふやさんと初めて、とうにゅうをのんだよ。 とうふの作り方をクイズにしてお家の人に知らせたいな。	体験したことや気づいたことを児童の思いや願いを生かした多様な表現活動を通してまとめさせる場を設定する。 ・探検で気づいたことを右の「発見カード」にまとめる。 ・探検に行った同じグループで誰にどんなことをお知らせするのか話し合い、どんな表現方法にするか決める。 ・保護者を招待してグループごとに協力して発表する。 はっけんしたよ！ 6月11日 火 天気 晴れ  おとうふやさんが大きなおなべをつかって、いばいその大きなおなべにいばいとくにゅうとあわめた、いばいものがあつきました。入っていました。とてもおいしかったです。できるのが、時といてまた、さごにとうにゅうをのませてもらいました。
広 げ る	・おれいの手紙を書こう サンエーの～さん探検のときはありがとうございました。	感謝の気持ちをこめてお世話になった店や地域の人にお礼の手紙を書く。

(2) 他教科との関連を図った指導

生活科の指導は、他の教科と深く関連させることによって効果的に展開されていく。具体的な活動や体験で得た気づきや感動は、表現への意欲につながる。その際、他の教科や領域で培った力が生活科の中で発揮される。すなわち、生活科における活動や体験が他の教科に広がり、それらの学習の充実に役立ち、他の教科の目標も達成される。今回は、「さあ出かけよう 町たんけん」において（図2）のような他教科との関連を図った指導を行った。

(3) 学習カード等の利用

生活科においては、児童自身が自らの活動を振り返っていく時間が大切にされなければならない。なぜなら、活動の中における様々な知的な気づきなどの認識の芽を育てていく必要があるからである。さらに活動の中の新たな発見に気づかせたり自分達の活動を見直すことによって自信をもたせたりすることが大切である。そのためには、日記、手紙、学習カード、振り返りカードなどの活用を通して自分や友だちのよさに気づかせる必要がある。

(4) 支援について

生活科では、児童が意欲的に楽しく活動できるように、教師は環境を整え、授業の場では児童の活動を認め、支え伸ばしていく役割を担う。教師の支援の在り方について次のようなことが考えられる。

① 一人一人に応じた支援

児童の思いや願いをしっかりと受け止め、活動を温かく見守り時には、励ましの言葉をかけるなど、一人一人が成長するのを支え、手をさしのべる。

② 児童の思いを受容する支援

生活科の授業では、児童の興味・関心に応じて臨機応変に対応するようにしなければならない。教師は、児童の思いや願いをしっかりと受け止め一人一人の活動を受容し認めていく支援を心がけることが大切である。

③ 待つ支援と引き出す支援

児童の試行錯誤を見守り、期待しながらも「じっと待つ」部分と「引き出す」部分がある。これを瞬時に判断しながら、一人一人の児童に柔軟に接していくことが求められている。

④ 児童と共に活動する支援

児童理解から出発する生活科に当たっては、児童と共に感動し、共感できる教師が求められている。児童と共に活動することによって、体験を通して生まれる感動を受け止めたり、会話の中から児童の気づきを見取ったり、それをその場で他の児童に広げたりすることができる。

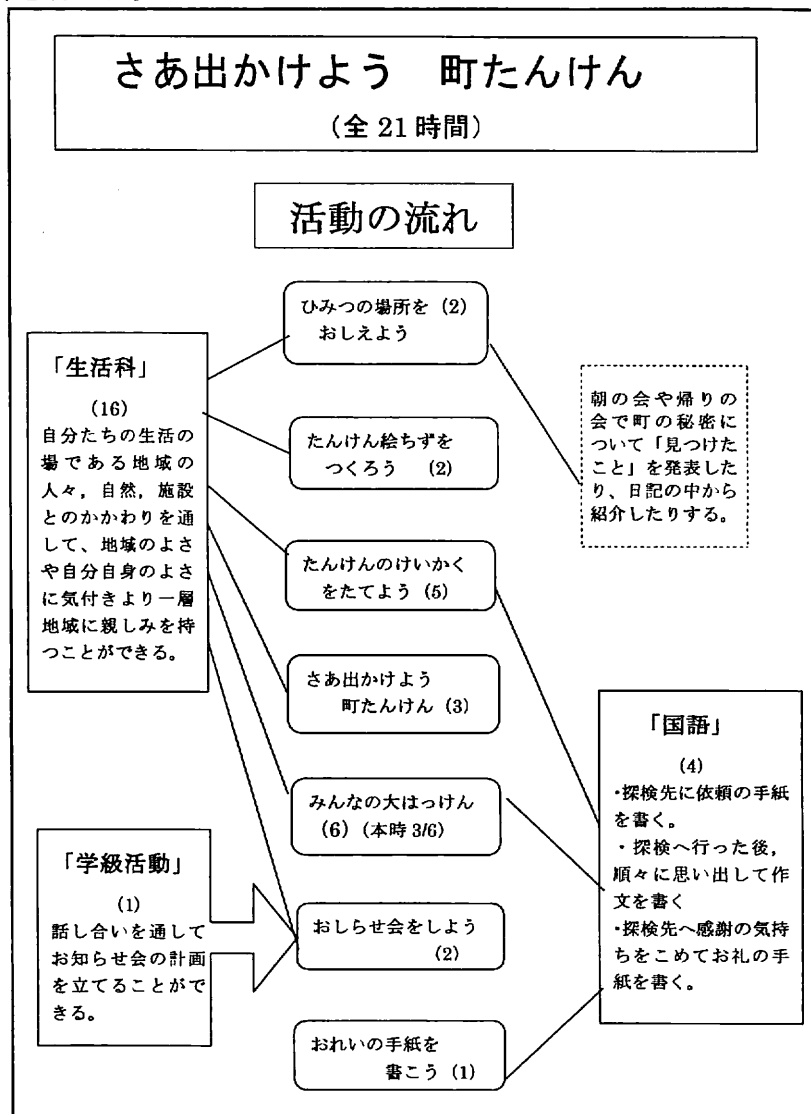


図2 他教科との関連を図った授業構想

4 評価の工夫

(1) 評価の方法

生活科において児童一人一人のよさや可能性などを積極的に評価する。そのため、短期間の評価ではなく継続的に長期にわたって一人一人の児童の体験の広がりや深まり、変容を見取るようにする。評価の方法としては、行動観察、発言、作品分析、自己評価、相互評価などがある。観察カードや発見カード、作文などの作品をファイルし、単元終了時などに取捨選択して、振り返るポートフォリオ評価も有効である。

(2) 気づきメモカードの活用

探検活動においては、保護者も気づいたことがメモできるような気づきメモカード（表 1）を作成し、児童の良い面を賞賛したり、児童が当面している課題を教師が支援していくために活用していく。

表 1 気づきメモカード（抜粋）

(探検先名)		世話係 (Y・Mさん T・Kさん)
名前	クラス	児童のようす
Mさん	2組	・ ケーキを作っているところをしっかりと見て、質問していた。
Aくん	1組	・ グループのリーダーとしてみんなに注意していた。真剣に質問していた。
Kくん	2組	・ 声が大きくはきはきしていた。あいさつはしっかりできた。
Sさん	2組	・ 最初は、恥ずかしがって質問できなかったが、お礼の挨拶はちゃんとできた。

(3) 評価計画の作成

評価をより客観的に行うために評価基準を盛り込んだ評価計画（表 2）を作成し、児童一人一人の活動状況の把握と個に応じた支援を配慮する。

表 2 評価計画

評価規準	評価場面 (方法)	評価基準		
		十分満足できる (A)	おおむね満足できる (B)	努力を要する (C)
秘密の場所を紹介したり、教えたりすることに興味をもち、地域の様々な人や場所とかわることを楽しもうとする。 (関心・意欲・態度)	ひみつのばしょをおしえる 場面 (発表、日記、カード)	秘密の場所を教えたり紹介することに興味関心をもち、探検に行ってみたという思いが膨らんでいる。	秘密の場所を教えたり紹介しようとしている。	教師に助けられて秘密の場所を教えたり紹介している。
見つけた場所や人を絵地図かくことによって地域の様子に気付くことができる。 (気づき)	たんけんえちずをつくる場面 (大型地図、カード)	地域の様子によく気付くことができる。	地域の様子に気付くことができる。	教師の支援を受け、地域の様子に気付くことができる。
探検することに興味をもち、地域にかかわることを楽しもうとする。 (関心・意欲・態度)	たんけんのけいかくをたてる場面 (発言、たんけんカード、観察)	地域探検に関心を持ち自分の思いで探検したい所を決めることができる。	友達と相談して、探検したい所を決めることができる。	教師と相談して探検する所を決めることができる。
めあてを実現するために友達と工夫して探検の準備ができる。 (思考・表現)	さあでかけよう町たんけんの場面 (観察、発見カード探検カード)	友達と協力してすすんで探検の準備をすることができる。	友達と協力して探検の準備をすることができる。	友達に言われて探検の準備をすることができる。

Ⅳ 授業実践

1 単元名 「さあでかけよう町たんけん」

2 単元設定の理由

(1) 教材観

本単元は、児童の思いや願いを実現させるために自分の住む地域に出て、そこにある自然、社会、人とのかかわりなど児童の体験や生活圏を広げるよう設定した。

児童の生活圏である糸満市西崎は、緑豊かで公園も多く自然・社会環境に恵まれ住宅地や商業地として年々発展してきている。学校の近くにある公園では、放課後や休日になるとたくさんの児童が楽しく遊んでいる。また最近飲食店やパン屋などいろいろな店も増え、児童は買い物に出かけたり遊びに出かけたりする中で地域に住んでいる人や、そこで働いているいろいろな人にかかわることができる。このような学校の周りにある様々な場所を探検し、地域の人々や自然、施設とかかわることによりこれまで気づけなかった地域や地域の人々のよさに気づかせたい。さらに、自分たちが発見したことを誰かに伝えるために、多様な表現方法でまとめる力も育てていきたい。

まとめたことを工夫して友達や家族に発表することにより、伝える喜びや成就感を味わわせ、地域のよさ、友達や自分のよさに気づいていくことにも期待できる。

(2) 児童観

児童は、1年生の生活科の学習で近くの公園に出かけ「せみとり」をしたり、「秋見つけ」をしたり身近な自然と触れ合ったりしてきた。また学校内を友達や上級生と探検したり、お招き会を通して幼稚園児と関わり交流する楽しさも味わってきた。2年生になり友達の家を訪ねたり地域の公園や様々な場所で遊んだりするなど、行動範囲も徐々に広がりさらに活動の範囲を広げようとしている。

「自分の住んでいる西崎町が好きですか。」という質問に対して97%の児童が「好き」と答え、好きな理由は「友達がいるから」「公園があるから」などであった。また、「家や学校の近くにすてきな人がいますか。」の質問に対して「はい」と答えた児童は65%であった。しかし、その中の96%の児童が家族や友達と答えており、地域の人々との関わりはまだ、少ないようである。

そこで、地域を探検し店や公共施設で働いている人に話しかけたり、挨拶をしたりする中で地域の人とのかかわりをより多くもつようにする。

(3) 指導観

一人一人の思いや願いに対応するために次のような工夫をする。

- ・ 「行ってみたい」「やってみたい」という意欲を喚起し、児童の思いや願いが継続するような児童の意識の流れに沿った学習過程の工夫をする。(学習過程の工夫)
- ・ 児童が、通学路で見つけた町の秘密や町の自慢を朝の会や帰りの会を通して発表させながら、その場所を訪ねてみたいという意欲付けをする。(教材との出会い)
- ・ 探検活動においては、自己選択により探検場所を決め、十分な時間を確保し地域との触れ合いを通して、地域やそこに住んでいる人のよさに気付かせたい。(十分かかわれる時間の保障)
- ・ 五感を働かせ見たこと、聞いたこと、感じたこと、気づいたことをまとめさせることによってより確かな思考・表現として育てていく。(五感を通した知的気づき)
- ・ 体験したこと、気付いたことを児童の思いや願いを生かした多様な表現活動を通してまとめさせ、意欲的に発表ができるようにする。(多様な表現活動)
- ・ 「ふりかえりカード」「知ってるよカード」「探検カード」「発見カード」「まとめかたカード」の活用や日記を通して、自分や友達のよさに気付かせたい。(知的気づきを深めるカード等の利用)
- ・ 安全面や個々への思いや願いに対応するために学年TTを組んだり、保護者への協力をお願いする。(個への対応)

3 単元の指導目標

自分たちの生活の場である地域の人々・自然・施設とかかわりを通して、地域のよさや自分自身のよさに気づきより一層地域に親しみを持つことができる。

意識の流れ

活動の流れ

☆支援

◎評価

わたしは、犬のさんぽのときモルチェを見つけたよ。

ぼくのいえのちかくのパーマやさんと友だちだよ。

たんけんのはたもつくろうよ。

モルチェのおねえさんへおねがいの手紙を書こう。

モルチェのおねえさんへ
こんにちわ
わたしはこうぶつ小学校の2年生です。
わたしはモルチェは「どん」ところかな
っておもっています。
だから、こんどたんけんに行
きますようにお願いします。
2の2より

ひみつの場所をおしえよう(2)

- ・学校の行き帰りで、見つけたことや地域の自慢を発表する。①
- ・地域にある自然やお店、施設などの写真を見て場所あてクイズをする。
- ・三年生からのおすすめの場所の紹介をする。①

たんけん絵ちずをつくろう(2)

- ・学校の行き帰りで発見したことや、知らせたいことを絵や言葉でカードにかき、地図にはる。①
- ・毎日会う人や時々会う人も地図にかく。①

たんけんのけいかくをたてよう(5)

- ・同じ目的や課題を持つ児童同士で探検グループを編成しグループ名を考え旗を作る。②
- ・調べたいこと、場所、持ち物について話し合う。①
- ・人への対応の仕方やマナーについて話し合う。①
- ・探検先へ「お願い」の手紙を書く。① (国語)

☆地域の写真を見せたり、校区の様子をお知らせした三年生からの手紙を紹介したりして、探検への意欲が高まるようにする。

☆活動の場が広がるように多様な場所を発表させる。

◎秘密の場所を教えることに興味をもち、地域の様々な場所とかかわることを楽しもうとしている。 [関心・意欲・態度]

☆地図には主な道路と学校、目印になるような建物や店などを書いておく。

◎絵地図にかくことによって地域の様子を気付くことができる。 [気付き]

☆どんなことがしたいのか、どんなことを聞きたいのか質問することをまとめさせておく。

☆もっと調べたいもっと知りたいという思いや願いを引き出すような言葉かけをする。

◎探検することに興味をもち、地域にかかわることを楽しもうとしている。 [関心・意欲・態度]

◎めあてを実現するために友達と工夫して探検の準備ができる。 [思考・表現]

意識の流れ	活動の流れ	☆支援	◎評価
どんな人にあえるかな。  しん水公園でおばさんといっしょにそうじをしたよ。 とうふのつくりかたをクイズでまとめよう。 おかあさんにほいく園のことをしらせたいな。 	さあ出かけよう町たんけん (3) ・グループで協力して探検する。 ・安全に気をつけて探検し地域の人や自然・社会と進んでかかわり調べる。 ③ みんなの大はっけん (6) ・五感を働かせ感じたこと気づいたことを作文に書く。(国語)② ・探検して気付いたことを発表し、まとめ方についてグループで話し合う。①[本時] ・グループで表現方法を決め、協力してまとめる。③ お知らせ会をしよう (2) ・お知らせ会について話し合う。学活① ・グループごとに協力して発表する。① おれいの手紙を書こう (1) 感謝の気持ちをこめて手紙を書く。 国語①	☆探検するところには、あらかじめ活動目的や内容を伝え協力を依頼しておく。 ☆安全面の配慮・個への対応のため学年TTを組み、保護者に引率をしてもらう。 ◎挨拶したり話しかけたりするなどすすんで地域の人とかかわろうとする。[関心・意欲・態度] ◎地域や人々の様子を気付く。[気付き] ☆探検の様子を順序よく思いださせる。 ☆探検に行った同じグループで話し合わせるようにする。 ☆探検して見つけたこと、気づいたことを再確認させる。 ☆話し合う手順を確認し、十分に話し合わせる。 ☆一人一人が発表にかかわれるように役割を決めさせる。 ◎探検して発見したことや気付いたことをすすんで紹介しようとする。[関心・意欲・態度] ◎探検して発見したことや気付いたことを工夫して表現できる。[思考・表現] ☆発表しやすい雰囲気づくりをする。 ☆一人一人の役割が果たせるようにする。 ☆保護者に感想の発表をお願いする。 ◎探検したことをグループで協力しながら表現することができる。[思考・表現] ◎地域や地域の人々とかかわって生活すると、楽しいことに気付く。[気付き] ☆お礼の仕方を考えさせ、感謝の気持ちを書けるようにする。 ◎お世話になった人に感謝の気持ちを伝えることができる。[思考・表現]	

5 本時の指導計画

(1) 活動名 「まとめかたについてそうだんしよう」

(2) 活動のねらい

目的意識・相手意識をしっかりとって、まとめ方を工夫することができる。

(3) 授業の仮説

・だれに何をどんな方法で伝えるかははっきり持つことによって、児童はまとめ方の見通しをもち生き生きと活動するであろう。

・いくつかのまとめ方を提示することによって自分たちの考えを出し合い、自分たちなりの表現方法を工夫することができるであろう。

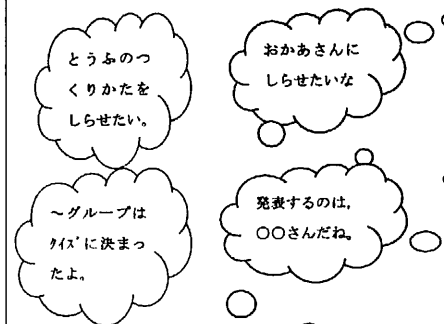
(4) 展開の実際

過程	児童の活動	意識の流れ	教師の支援	評価
つかむ (13)分	1 前時の活動を振り返る ・みんなで「さあでかけよう」の探検の歌を歌う。 ・ビデオを見て探検活動をふりかえる。	まるでのれいぞうこの中はつめたかった。 ケーキのつくりかたがわかったよ。	・歌を歌って雰囲気づくりをする。 (指揮は児童にさせる。) 	
	2 探検した発見したことや気がついたこと、初めて知ったことなどを発表する。		・発表する時は、はっきりと大きな声で、聞く時は静かに最後まで聞くことを約束する	・探検して発見したことや気づいたことをすすんで紹介しようとする。 [関心・意欲・態度]
	3 活動のめあてを確認する。	まとめかたについて そうだんしよう 	・話し合い活動であることを確認する。 ・誰にどんなことをどんなまとめ方で伝えるのかははっきりさせる。 ・児童からでない時は、教師がヒントを与える。 (絵本、ペーパーサート、クイズ等)	

4 グループ毎に話し合う。

- ・話し合う内容や約束を知る。
- ・司会を中心に話し合い、決まったことをワークシートにまとめる。

交流する
(27)分



5 グループで決まったことを発表する。



6 本時の振り返りをする。

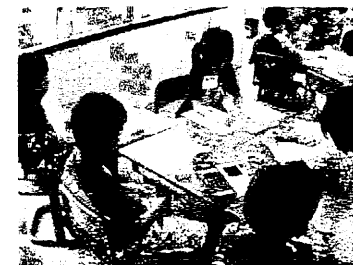
まとめる
(8)分



・グループで協力しながら話し合えるように支援する。

・一人一人が役割を分担する。

・相手意識・目的意識をしっかりとって工夫してまとめることができる。
[思考・表現]



・話し合いで決まったことを自信をもって発表できるように励ます。

・他のグループの発表もしっかり聞けるように声かける。
・それぞれのがんばりを認めあえるようにする。

・自分たちでまとめたことを発表したり、他のグループの発表もしっかり聞こうとしている。
[関心・意欲・態度]

・それぞれの気持ちをほめてあげるようにする。

・自分や友だちのよさに気付いている。
[気付き]

ふりかえりカード 8月21日(金) 2の2

()には、「はい」か「いいえ」で答えよう。

1 グループのはなしあいでは、じぶんの持っていることが、きちんと伝えられたか。(はい)

2 グループの人ときょうりょくしてはなしあいができたか。(はい)

3 友だちのはなしを、しっかりと聞くことができたか。(はい)

4 みんなのまゝで、げんきよくはなそうできたか。(はい)

5 「まとめかたについてそうだんしよう」のはなしあいでは、がんばったことはなんですか。

おおきなこえでしゃべりました。

6 友だちのがんばっていたことを見つけたか。(はい)それは、どんなことですか。

たつやくんがえをかいているところ

7 はなしあいのための「おたずねカード」をついたらわかりやすくてよかったか。(はい)

8 おかあさんやおとうさんへ知らせするほうほうがみつかりましたか。(はい)

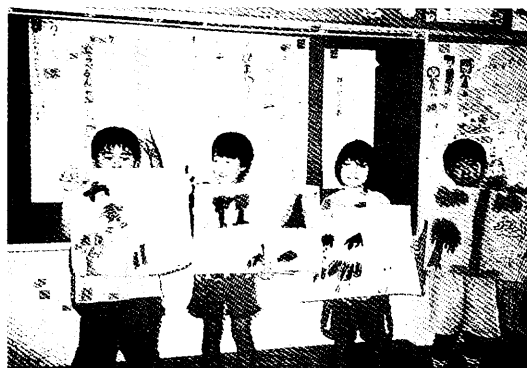
9 はなしあいをして、おもしろかったのはつぎのほうほうもがんばろうとおもいましたか。(はい)

Ⅵ 実践を終えて

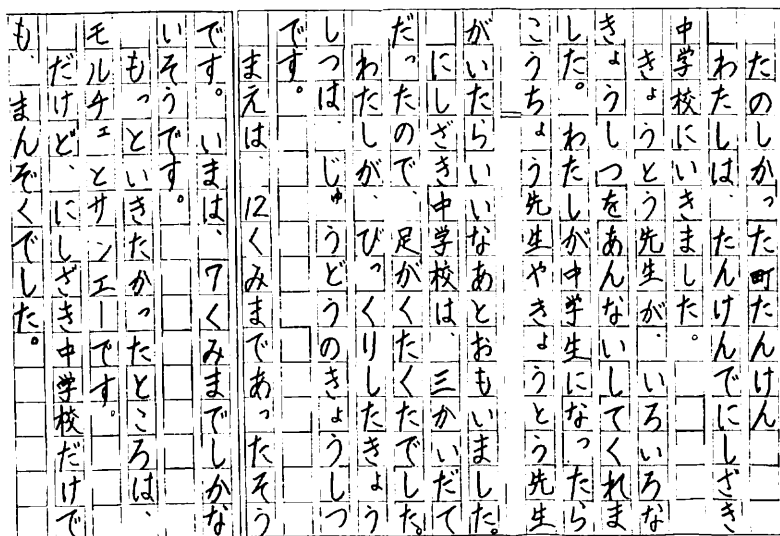
(1) 学習過程の工夫における考察

本単元では、児童の思いや願いが生かせる場を学習過程の各段階の中に設定し授業を実践してきた。

- ① 「ひみつのばしょをおしえよう」では、最初教える場所が中々見つけられなかった児童も、友だちの発表を繰り返し聞くうちに地域のよさに目を向け、紹介したい場所を見つけることができるようになってきた。
- ② 「たんけん絵ちずをつくろう」の場面では、学校の行き帰りに学校の周りで見つけたいろいろな店や生き物などを朝の会や帰りの会で発表し、絵地図に絵や言葉で貼っていった。白地図がどんどんうまっていき「早くたんけんに行きたいなあ」という児童からの声が聞こえた。
- ③ 「たんけんのけいかくをたてよう」では、児童の思いや願いでグループを編成し、探検場所を決めたため、児童が生き生きと活動した。「調べたいこと」「調べたい場所」についてグループ内で活発に話し合うことができた。また、探検先へお願いの手紙を書くことで探検への意欲が高まった。
- ④ 「さあでかけよう町たんけん」では、十分な時間を確保し探検カードにまとめさせ、めあてをしっかりもって探検に出かけた。そのため、「中学校にはじゅうどうのきゅうしつがあるのでびっくりした。」また、「とうにゆうがとうふになることが、はじめてわかった。」など児童の様々な発見や気づきがあった。親水公園では、「そうじをしているおばさんとお話をしていっしょにおそうじをしたよ。」などと、地域の人と十分触れ合うことができた。児童は地域の人とかかわる活動の中で、挨拶や自己紹介、質問などがだんだん上手になり探検後は、自然にお礼の言葉が言えるようになってきた。
- ⑤ 「みんなの大はっけん」では、探検して発見したことや気づいたことをまとめるために、グループで話し合い紙芝居や絵本・ペープサート・クイズにまとめていった。一人一人が話し合いや発表にかかわれるように役割分担したので、それぞれの役割で生き生きと作業を進めることができた。
- ⑥ 「お知らせ会をしよう」では、保護者を招待して各グループごとに発表会を開いた。豆腐屋さんに行ったグループは、クイズにまとめ楽しく発表していた。全体的に声は小さかったが、グループでそれぞれの役割を分担しながら発表していた。発表後の「友だちのいいところを見つけることができましたか。」という振り返りカードの中では、「〇〇さんは絵が上手」とか、また児童のつぶやきから「相談する時にみんなで協力できたよ。」などの感想があり、友だちのよさに気づくことができた。
- ⑦ 「おれいをしよう」では、お世話になったお店の人や幼稚園・中学校への感謝をこめた手紙を書くことができた。



資料3 絵で発表したグループ



資料4 探検後の児童の作文

(2) 児童の変容 (Tさん)

Tさんは、これまでどの学習に対しても集中力に欠け、自分の思っていることを友だちに上手に伝えることができなかった。「ひみつのぼしよを見つけよう」の場面では、町の秘密を見つけることができなかったが探検の計画を立てる場面では、自分から進んで行きたい場所を決めることができた。探検場所では、小さな声ではあったが店の人にあいさつをして「看板を作る時はつかれますか。」と質問することができた。

「みんなの大はっけん」の場面では、お知らせ会へ向けてグループで紙芝居にまとめ、自分の分担したところを一生懸命楽しそうに描いていた。授業後の振り返りカードでは、「また探検に行きたい。」と書いていた。Tさんは、探検活動を通して学習に対する意欲が高まり生き生きと活動することができるようになってきた。

(3) 単元を終えて

単元に入る前の実態調査では、「家や学校の近くに素敵な人がいますか。」の質問に対して「家族や友だちと答えていたが、授業後の振り返りカードでは、「お店の人、モルチェのおばさん、お豆腐やの〇〇さん」と答えている。また、探検後の作文にも「いろいろな人に会って楽しかったです。」「報得書店の〇〇さんは、とてもやさしくて、話が上手でした。」との感想があった。ことから、地域の人とかかわる中で児童は地域の人のやさしさやよさに気づくことができたことがわかった。

表3でもわかるように単元に入る前の意識調査では、「進んで発表できる」という児童が授業前は68%だったが授業後は91%に増えていた。このことから、人前での発表に抵抗がある児童が、授業後の感想で「お知らせ会では、大きな声で発表できた」「発表することがだんだん楽しくなった。」など発表への抵抗が少なくなってきたことがわかった。また、「自分の思っていることがはっきり言える」という質問では、授業前は、79%であったが、授業後は97%になり自分の思っていることが言える児童が増えていることがわかった。

(表3) 授業前と授業後の意識調査 (人数 38人)

以上のことから、児童の思いや願いを大切に児童の意識の流れに沿った学習を展開していけば、生き生きと活動していくことが検証できた。

質問事項	授業前	授業後
・思っていることがはっきり言える	79%	97%
・進んで発表する	68%	91%

V 研究の成果と今後の課題

1 成果

- (1) 探検場所を自己選択し、同じ思いをもつ児童同志で探検隊を編成したので生き生きと活動に取り組む姿が見られた。
- (2) 探検のめあてをしっかりと持ち、進んで質問したり、地域の人とかかわったりする中で知的気づきを深めることができた。
- (3) 国語や学級活動との合科的・関連的指導を図ったので生活科やそれぞれの教科で育てたい力も高めることができた。
- (4) 評価計画を作成することによって、児童理解に役立ち個に応じた支援ができた。
- (5) これまでの教師主導の授業から児童の側に立った授業の在り方を学ぶことができた。

2 今後の課題

- (1) 地域や地域の人とよりかかわりを深めるための体験活動を取り入れた「町探検」の単元構想の作成
- (2) 生活科から総合的な学習の時間へ移行できる生活科授業の在り方
- (3) 発達段階に応じた1・2年の年間指導計画の作成

<主な参考文献>

寺尾慎一著	『生活科授業づくりの新提案』	明治図書	1996年
中野重人	『生活科授業づくりのポイント』	図書文化	1990年
嶋野道弘	『新しい教育課程と学習活動の実際生活』	東洋館出版社	1999年